

## 作家紹介 | 奈良 美智

1959年青森県生まれ。1987年愛知県立芸術大学大学院修了。1988年、初の個展を名古屋、東京、デュッセルドルフで開催、その後毎年各地で個展を開催するほか、数多くのグループ展にも出品を続けている。

2006年、美術館以外で開催された展覧会としては恐らく最大規模となった、青森県弘前市の吉井酒造煉瓦倉庫で行われた展覧会『YOSHITOMO NARA + graf A to Z』を開催。3ヶ月間で8万人を動員したこの展覧会は、当時のアート業界を激震させた。

奈良美智の作品モチーフは子供たちや犬がメインで、ドローイングや木の彫刻、FRP（繊維強化プラスチック）素材を使用した立体作品が多い。作品に登場する子供のイメージは、幼少期に鍵っ子で寂しい思いをしていた奈良の自画像とも言える。可愛さと残酷さをあわせ持った「子供」たちは、自分の中に存在した、かつての自分自身を思い起こさせる作品となっている。

2019年の海外オークションでは「ナイフ・ビハインド・バック」という少女を描いた作品が約27億円で落札されるなど奈良の少女は世界的に人気のある作品である。

奈良美智「ナイフ・ビハインド・バック」



今回展示の「Star Island」もにらみつけるような目の女の子や眠るような犬をモチーフにした作品で国内外問わず人気の作品である。

# 作家紹介 | 名和 晃平

1975 年大阪府高槻市生まれ。

1998 年京都市立芸術大学彫刻専攻卒業後、イギリスに留学。その後はニューヨークやベルリンに滞在し、現代アートと向き合うことになる。

2006 年には、最先端の日本人アーティストを世界に向けて紹介するギャラリー「SCAI THE BATHHOUSE」で個展を開催し、その存在を広く知らしめた。

2009 年からは京都に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げ、さまざまなジャンルのクリエイターを集めたプロジェクトを進行させている。

彼の創作活動の大きな指針となっているのは、“PixCell”（ピクセル）という独自の概念である。これは、画素を意味する「Pixel」と細胞を意味する「Cell」を組み合わせた造語で、映像を生きた細胞として捉え、作品の要素や質感を新しい視点から創り出している。

ガラスビーズやプリズムシートを使った彫刻は世界中から注目され、日本を代表する現代美術家の一人である。

# 作家紹介 | ジェフ・クーンズ

1955年ペンシルベニア州生まれ。大学を卒業後、ウォール街で投資会社を設立する一方でアーティスト活動をスタートさせた。

その活動は「シリーズ」という形式のいくつもの作品を制作するスタイルで、掃除機や子犬、バスケットボールなどをモチーフに、全く新しい構図を生み出し、常に世間を驚かせた。

彼が注目を集めるきっかけになったのは、1985年にニューヨークのソナベント画廊が企画したグループ展である。彼らの新しい幾何学表現による概念の芸術は「ネオ・ジオ」と呼ばれ、一躍人気アーティストの仲間入りを果たした。

その後も斬新で独創的な作品を次々と発表し、非常に高い人気と影響力を持つようになったが、美術評論家の評価は真っ二つに分かれており、「現代のミケランジェロ」と称賛される反面、「キッチュで下品、商業的」と酷評される事も多い。時には刺激的な作品で話題や議論を提供し続けているが、現代アートの第一人者のひとりであるのは間違いない。

2019年5月の海外オークションで、「ラビット」が約100億円で落札された。これは存命する作家の作品としては史上最高額で、世界中で大きな話題となった。

今回展示の「BALLOON DOG」は1990年初めから創作された彫刻“Celebration”シリーズのひとつで、クーンズの代表作と言える作品である。ミラー状に反射加工された磁器で作られており、複雑な結び目やしわまで細部にわたり再現されている。

## 作家紹介 | ダミアン・ハースト

1965年イギリス・ブリストル生まれ。イングランドのリーズ美術大学、ロンドン大学のゴールドスミス・カレッジでアートを学ぶ。1988年、ゴールドスミス・カレッジ在学中に他の学生たちと共に主催したエキシビション「Freeze」をきっかけに、チャールズ・サーチがダミアン・ハーストら若手アーティストを見出す。そのサーチ・ギャラリーで行なわれた企画展の「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（イギリスを代表する若手アーティスト）」通称【YBA】の代表格として知られている。1995年には英国で最先端の芸術家に贈られるターナー賞を受賞。

生と死をテーマに創作活動を行い、牛を真っ二つに割いて酢漬けにしたり、鮫をホルマリンのタンクに沈めるなどの衝撃的な作品が多数ある。またダミアン・ハーストは「生と死」というテーマだけでなく、在学中から最新作にもみられるカラフルなドット（スポット）を等間隔で散りばめた絵画の《The Spot Painting》についてはドラッグがテーマであるとされている。動物の遺体を使ったホルマリン漬けの《Natural History》のシリーズに対し、「錠剤（ピル）」のイメージである「スポット」は、人間が「死」に対抗するための汎用的なツールであることを考えさせられる作品となっている。

今回展示の作品はダミアン・ハーストがポップカルチャーを駆使して、シルクスクリーンプリントのシリーズを発表し、ディズニー最愛のミッキーとミニーマウスのキャラクターを遊び心で表現したもの。ドットで抽象的に描かれたミニーがグリッター（ラメ）に覆われており、存在感のある作品となっている。

# 作家紹介 | KAWS

1974年ニュージャージー州生まれ。1996年ニューヨーク美術学校イラストレーション科を卒業。1990年代にニューヨークへ移り住むと、CALVIN KLEIN や DKNY の屋外広告に落書きをする手法でストリートアーティストとして活動をはじめ、やがてそのアートが多くの人々の注目を集めることになった。

それがきっかけとなり、数々のブランドや企業とコラボすることで彼の名前と作品は飛躍的に知られるようになった。2019年に中国でユニクロとコラボ発売されたTシャツに客が殺到し、世界中に大きく報じられたのは記憶に新しい。

日本での人気も絶大で、2019年に富士山のふもとで開催されたイベント「KAWS:HOLIDAY」には多くのファンが訪れた。

また KAWS は、芸術とおもちゃを融合させたアート・トイのパイオニアとしても知られ、セサミ・ストリートなどキャラクターをアレンジしたものその他、オリジナルキャラクターも制作している。

今回展示している作品は、彼の代表的オリジナルキャラクター「コンパニオン」のフィギア。この子供を抱えているポーズは、長女が誕生したときに思いついたと言われており、2014年に香港で発表されると即完売になった人気作品である。